



Chromium をベースにした「新生Microsoft Edge」が 安定版としてリリースされたいお話

2020.02.21
nishiura junko



2018年末、マイクロソフトは Microsoft Edge を再構築するにあたり、オープンソースプロジェクトの**Chromium**（クロミウム）をベースにすることを発表しました。これは、あらゆるユーザーのために互換性を強化し、Web 開発者のために断片化（本来記憶されるべきデータが、メモリやディスク上に分散してばらばらに記憶されてしまうこと。これによりメモリアクセスやディスクアクセスが遅くなる）を最小限にとどめ、Chromium コミュニティとのパートナーシップを通じて Chromium エンジン自体の改良に貢献することを目的としているそうです。

Chromium版の新生Edgeは、2020年1月15日にWindows Updateで配布される予定であり、今後は多くのWindows10ユーザーがChromium版Edgeを使うことになると予想されます。

? Chromium（クロミウム）ってなに。

多くの人がお世話になっているウェブブラウザ。中でも、米Googleが開発した『**Google Chrome**』がシェアではトップ。この『Chromium』はGoogleが開発したオープンソースの**Webブラウザ**です。オープンソースなので、このソースコードは公開されています。なので、このChromiumのソースコードを用いて、ブラウザを自作できるのです。そして、Google ChromeもChromiumのソースコードを用いて作られています。

Webブラウザには、HTMLやCSS、JavaScriptで書かれたコードを、私たちの目に見えるような形で表示する機能があります。この機能を、『**レンダリングエンジン**』といいます。

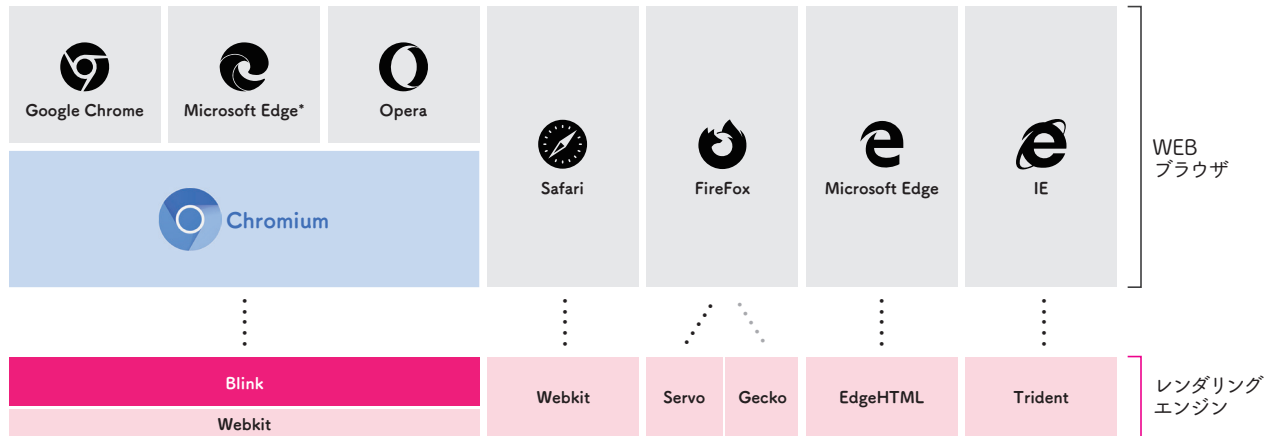
主要レンダリングエンジン

Blink / WebKit / Gecko / EdgeHTML / Trident

→ Chromiumは「**Blink**」のレンダリングエンジンを使っている！



WEBブラウザとレンダリングエンジンの関係図



それぞれに使用しているレンダリングエンジンが異なるため、
同じような表示を実現するために「ベンダープレフィックス」が必要となるわけです。

WEBブラウザの便利機能に「拡張機能」「アドオン」などがあります。ブラウザの操作性を向上させる、お助けオプション的なアレです。今回の新しいMicrosoft Edgeでは、Google Chromeと同じ「拡張機能」を使うことができます。

(導入方法としては、Microsoft Edgeの【設定】→【拡張機能】から追加する方法と、Chrome ウェブストアから追加する方法の2種類あります。)

！日本国内でのWindows Updateを通じた配信は4月1日以降に延期された



新バージョンのEdgeは、Windows Updateを通じて順次配信が行なわれるほか、Microsoft Edgeのページより直接ダウンロードすれば手動アップデートが可能です。ただ、Chromiumベースのブラウザでは確定申告システム「e-Tax」上の一部機能が利用できないことから、日本国内向けのWindows Updateを通じた自動更新は特別措置として4月1日以降に持ち越されることになりました。

なので4月1日までは自分で直接配布サイトからダウンロードしない限りは古いEdgeのままなので、BRESTオフィスのEdgeのアップデートもそれ以降にすることにしましょう。(MacPCではダウンロードできるのでお試しください。)